

総合教育センター生涯学習部では、地域でボランティア活動を推進するための指導者を養成する研修を実施しています。また、生涯学習ボランティアセンターでは、ボランティア活動をしてみたいという方に対して、情報提供や支援を行っています。

今回は、今年度総合教育センターで新たにスタートした「地域課題解決型学習プログラム指導者養成研修」と、栃木県シルバー大学校で初めて実施された「卒業生と地域活動団体とのマッチング授業」について紹介します。

地域課題解決型学習プログラム指導者養成研修

栃木県では今年、地域課題の解決をとおして住民同士のつながりをつくるプログラム「地域元気プログラム」を作成しました。

本研修では、地域活動指導者を対象に、公民館や家庭教育学級、地域集会の講座等でこのプログラムを展開するために、プログラムの活用方法の習得や活動を実践するためのネットワークの構築を図り、プログラムのファシリテーターを養成しています。8月30日からスタートし、12月5日までの全5日間の日程で実施しています。

受講者からは、「ファシリテーターとしての具体的な技術を学べたのでよかった」「地域でのプログラム実施は、今後必要だということを実感した」等の感想をいただいています。

研修終了後には、それぞれの地域で地域課題解決のためにプログラムを実践し、ご活躍されることを期待しています。



第2日の講話「ファシリテーションの技術を学ぼう」



第3日の演習「プログラム体験Ⅰ」

シルバー大学校 卒業生と地域活動団体とのマッチング授業

栃木県シルバー大学校では、積極的に地域活動を実践する高齢者の養成を目的としています。そこで、9月で卒業していく学生を対象に、地域活動への動機づけや卒業後の活動継続のため、地域で活動している団体との出会いの場となることを目的に、マッチング授業が行われました。9月4日開催の北校には22団体、5日開催の中央校には23団体、7日開催の南校には22団体が参加しました。栃木県生涯学習ボランティアセンターも3校とも参加してきました。

学生のみなさんはとても積極的に生き生きと活動しており、これからのボランティア活動や地域活動において欠かせない存在になっていくだろうと感じました。



北校でのマッチング授業

<皆様の学びを応援します「とちぎ県民カレッジ」>

とちぎ県民カレッジは、県の各施設や市町、大学等高等教育機関、生涯学習関係団体等との連携のもと、それぞれが実施する講座や研修の学習機会を県民の皆様に提供するものです。学んだ成果をボランティア活動等で地域活動に生かしていただくことを目標としております。

平成30年度後期（10月～3月）に実施する講座をとちぎレインボーネット「とちぎ県民カレッジコーナー」でご案内していますので、どうぞご覧ください。



とちぎレインボーネット
QRコード



とちぎかがやきネット
QRコード



<「とちぎかがやきネット」のボランティア情報について>

栃木県生涯学習ボランティア活動支援情報提供システム「とちぎかがやきネット」では、ボランティアに関する情報を提供しています。ぜひご利用ください。

	<ボランティア活動情報> 県内各市町の広報紙やボランティアセンターに届いたボランティア関係の活動や講座等の情報をまとめて掲載しています。日時や地域、参加対象、分野などを絞り込んで検索することができるようになっています。
	<青少年の体験活動ボランティア活動情報> 栃木県とその関係機関、高等教育機関、青少年教育団体、ボランティアセンター等から集めた、青少年の体験活動やボランティア活動に関する情報を開催日順に一覧にまとめたものを、前期（4月～9月）と後期（10月～3月）に分けて掲載しています。
	<生涯学習ボランティア受入に関する情報> 県内各市町の社会教育施設（公民館、図書館、博物館、青少年施設等）において、「現在どんな分野のボランティアを受け入れているか」や、「今後どんな分野のボランティアを受け入れたいか」といった情報を一覧にまとめて掲載しています。

<センターボランティアの会です！！>

6月16日（土）、栃木県誕生145年を祝う「県民の日記念イベント」に参加しました。「生涯学習ボランティアセンター 一日出張相談」として、広報、啓発、相談、活動紹介を行うとともに、「ジュジュッとちぢんでキーホルダー」と題し、プラバンキーホルダー作りを実施しました。

透明のプラバンに、事前に用意した子どもたちの大好きなキャラクターや動物などの下絵をマジックで写し色を塗ります。ひもを通す穴を空けてから熱したトースターへ入れます。ギュッと縮んで世界に一つだけのキーホルダーができあがります。同じ下絵を使っても、色づかいや塗り方で、同じものはふたつとありません。また、トースターに入れたプラバンが縮む様子にびっくりし、「どうして？」という質問も飛び出しました。

来場者の中には、「孫に作ってやろう」と下絵を選んで真剣に色を塗るおじいちゃんやおばあちゃんの姿も見られました。

うれしそうにオリジナルキーホルダーを手にする参加者に、私たちスタッフも心がほっこりした一日でした。

